

飯伊地区 産業経済動向

No.503 2021/2
(3.3.25発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,377 枚	7.1 %	△ 4.4 %
	金額	3,521,051 千円	9.8 %	4.3 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)
	金額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	9 件	(前月 3 件)	(前年同月 6 件)
	飯伊	1 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(1月)		42 戸	△ 20.8 %	△ 60.7 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(1月)		1.24 倍	(前月 1.24 倍)	(前年同月 1.43 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,192 台	6.3 %	△ 1.5 %
	中古車	665 台	27.2 %	△ 3.9 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (1月)	新車	3,873 台	△ 0.5 %	5.1 %
	中古車	760 台	△ 15.1 %	0.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	75,703 台	3.6 %	△ 20.8 %
	出	76,990 台	4.4 %	△ 19.8 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	54,374 台	3.5 %	△ 17.6 %
	出	52,815 台	5.8 %	△ 15.4 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	8,741 台	0.7 %	△ 29.1 %
	出	8,763 台	1.6 %	△ 30.7 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	26,994 台	6.2 %	△ 21.0 %
	出	27,496 台	11.9 %	△ 18.9 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		178 件	61.8 %	20.3 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		3 件	(前月 3 件)	(前年同月 5 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	4,209 人	16.7 %	△ 79.8 %
	飯田～名古屋	3,848 人	△ 1.1 %	△ 74.5 %
	飯田～長野	2,949 人	1.2 %	△ 60.4 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	2,392 人	3.0 %	△ 85.9 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,288 人	5.7 %	△ 24.7 %
	右回り	2,423 人	15.1 %	△ 22.4 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

2月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス20.0で、前月から32.9ポイント上昇。翌月予測はプラス29.6で、前月から16.3ポイント上昇。

電気、精密機械器具の売上は、前月比概ね横ばい。景況感は概ね横ばい～やや改善。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれる。足元の景況感は業者により分かれたが、先行きは改善を見込む声が多く、一部に在庫を増やす動きも。産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者によって増減分かれるが、減少～やや減少との声が若干多い。「リピート予定の発注が延期」との声が聞かれる一方、「先月に続き受注は増加傾向」など景況感は分かれるが、改善傾向との声が若干多い。建築用金属製品の販売は、前月比やや増加、前年比は減少との声。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比ともにやや増加との声。小型電磁機器の生産は、前月比やや増加、景況感もやや改善傾向という。FA関連モーターの売上は、前月比、前年比ともにやや増加、「コロナの影響が継続して懸念されるが、景況は回復してきている」との声が寄せられた。光学機器部品の販売は、前月比やや増加、前年比減少、景況感は改善傾向との声。電気、電子製品の売上は前月比減少という。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比やや増加。春の繁忙期を迎え、一部には景況感が改善傾向との声も。先行きについて、「ゴールデンウィーク商戦がどうなるか。特に土産物は期待と不安が交錯する」との声が寄せられた。水引製品の販売は、前月比減少～横ばい。景況感はやや悪化～概ね横ばい。漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比減少との声。「業務用、飲食用の需要が少ない状態が続いている」という。

建設業

2月の建設業の景況DIはマイナス15.4で、前月から15.4ポイント低下。翌月予測DIは7.1で、前月から23.8ポイント上昇。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約41.8億円、前月比97%増加、前年比でも62%増加している(3月25日調査時点)。当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれたが、景況感が悪化との声は少なく、「災害工事の大型受注ができるなど、昨年よりも受注環境は良くなっている」などの声が寄せられた。

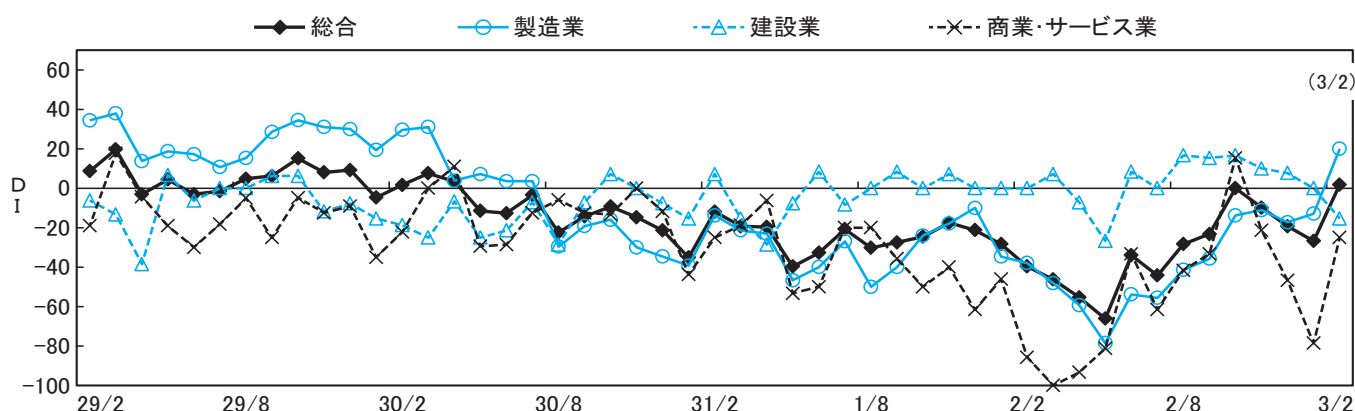
当地区の1月の住宅着工戸数は42戸。前月比21%減少、前年比61%減少。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。住宅建築の受注の少なさや、民間設備投資の低調を指摘する声。また、資材単価の上昇を懸念する声が複数聞かれた。

商業・サービス業

2月の商業、サービス業の景況DIはマイナス23.1で、前月から55.5ポイント上昇。翌月予測DIもマイナス18.2で、前月から38.9ポイント上昇している。

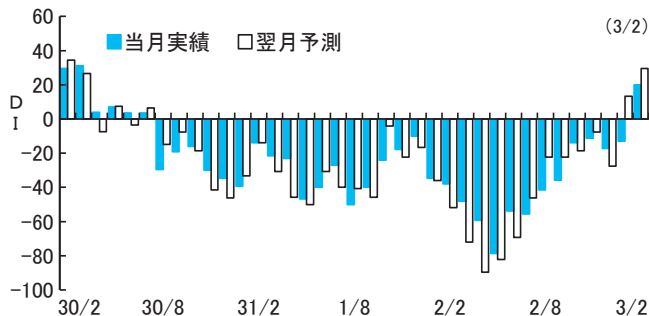
食料品の売上は前月比減少～やや増加。景況感はやや悪化との声が複数。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感は概ね横ばいとの声。家事用品の売上は、前月比概ね横ばい。電化製品の売上は、前月比、前年比ともやや増加。OA機器の売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい。「年度末、年度始めの需要」が見込まれている中、「欠品の発生」や、「運賃や役務費用の値上がり」を指摘する声。市内料理店の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声。「2月上旬は飯田保健所管内のコロナ感染の影響で宴会、来客とも厳しかったが、下旬には小宴会が入りだした」などの声。市内宿泊施設の売上は、前月比横ばい～やや増加、前年比では減少との声。昼神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少。「県民宿泊割で、県内客が少し増えるも、休館にせざるを得ない日も」「とにかく感染者が発生しない対応で手一杯」などの声。タクシーの売上は、前月比やや増加も、前年比は減少。「1月からの時短・休業要請は終了したが、自粛ムードで夜の需要は全く改善されなかった」という。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績DI	20.0	(前月 -12.9)
翌月予測DI	29.6	(前月 13.3)

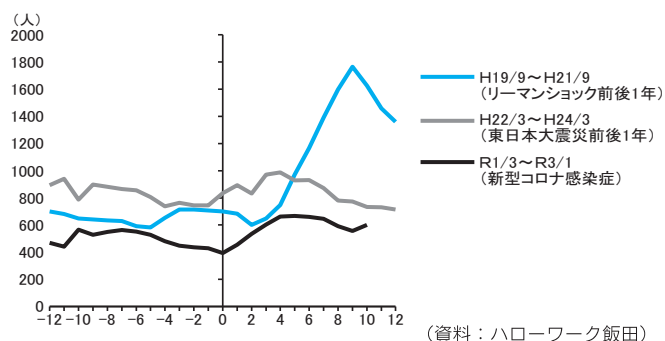
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス20.0で、前月から32.9ポイント上昇。翌月予測はプラス29.6で、前月から16.3ポイント上昇。

【コロナ禍における当地域の雇用関連統計】

ワクチン接種が開始されるも未だ収束が見通せないコロナ禍だが、今回は、コロナ禍の中で当地域の雇用関連統計がどのように推移しているか、平成20年9月のリーマンブラザーズ破綻前後や東日本大震災のあった平成23年3月前後と比較しながらご紹介する。

まず、雇用保険一般求職者給付受給者数を見ると、令和2年3月を境に受給者数は増加に転じ、5か月後（令和2年8月）に666人と一旦ピークを迎え、その後緩やかに減少している。このピークの水準は、リーマンショック時（1,764人、平成21年6月）、東日本大震災時（987人、平成23年7月）と比較すれば低い水準に留まっているといえる。ただ今回のコロナ禍においては、感染拡大局面では受給者数が増加することが予想され、緊急事態宣言が再発出された直近の令和3年1月には再び上昇に転じている点は気がかりである。

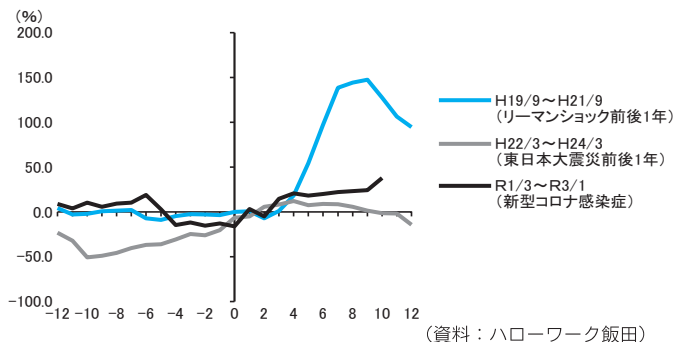
雇用保険一般求職者給付受給者数の推移 実数



続いて、雇用保険一般求職者給付受給者数の推移を前年増加率でみると、令和2年3月以降前年増加率が上昇しており、特に直近の令和3年1月ではプラス38%となっている。こちらもリーマンショック時に比べれば増加率は小さいが、増加率が徐々に大きくなっている点は気になるところである。

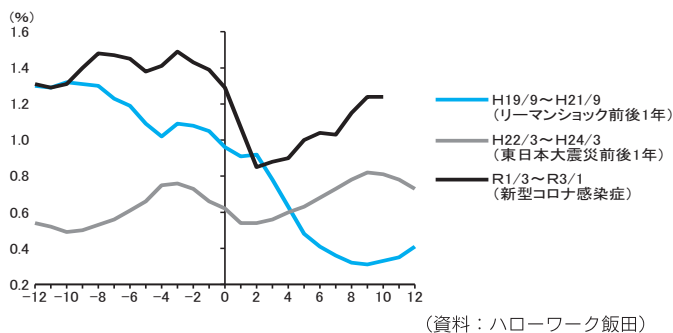
有効求人倍率（パートを含む実数）の推移を確認すると、やはり令和2年3月を境に急速な落ち込みを見

雇用保険一般求職者給付受給者数 対前年増減率の推移



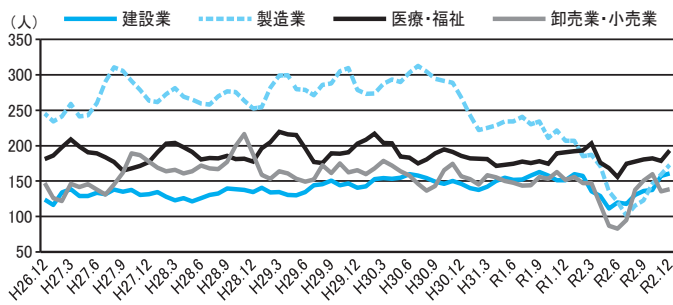
せ、5月には0.85と、約7年ぶりに1倍を下回った。その後は上昇基調に転じ、令和3年1月時点は1.24まで回復している。当研究所の調査でも人手不足を指摘する声は様々な業種から聞かれており、それを裏付ける結果となっている。

ハローワーク飯田管内 有効求人倍率（パートを含む実数）の推移



最後に、当地域で求人数の多い4業種（製造業、建設業、卸売業・小売業、医療・福祉）について新規求人数の推移を見ると、全業種で令和2年3月を境に求人数を急激に減らし、6月からは回復基調になっている。ただ、卸売業・小売業については12月にかけて減少しており、コロナ感染拡大の影響を受けていることが推察される。

ハローワーク飯田管内 業種別 新規求人数の推移（3か月移動平均）



機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比概ね横ばい。景況感は概ね横ばい～やや改善。先行きの売上見込みについては業者により増減分かれた。雇用面、設備面では大きな動きは見られない。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれた。減少した業者からは「2～

3月は取引先の期末調整のため売上減」との声が聞かれたが、次月以降は売上増加を見込む声が多い。「4月以降は好転」「半導体関連は夏に向けて高需要の予測あり」「コロナ禍の中、半導体需要増加の予測に期待」「FPD関連は持ち直し感あり」などの声が聞かれた。足元の景況感は業者により見方が分かれたが、先行きは改善を見込む声が多く、一部に在庫を増やす動きも。原材料単価については、引き続き先行き値上がりを予想する声が多く、「具体的な提示はないが、値上げの予告をしてきた取引先があった」という。その一方、製品単価については「値下げの依頼あり」との声も。雇用面では、「欠員者分を補充。今後も計画的な採用を検討」「新卒採用予定」「目下は充足も、若干名の補充を検討」など、積極的な声が多く聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者によって増減分かれるが、減少～やや減少との声が若干多い。「素材不足により今月減少」「設備向けは動きが悪い。海外向けが動かないと厳しい」「リピート予定の発注が延期」との声が聞かれる一方、「表面実装関連は良好。増産計画あり」「短納期案件が活発」「先月に続き受注は増加傾向」など上向きとの声も少なくない。景況感についても業者により見方が分かれたが、改善傾向との声が若干多い。

原材料単価が上昇との声は引き続き多く、「材料費の高騰により、受注が増えても安心はできない」「4月より全般値上がり」などの声。製品価格については横ばいとの声が多いが、「昨年末からのコストダウン要求が響いている」「相見積もりが多く、単価厳しい」などの声も聞かれた。雇用面では「中途採用で2名追加」「売上増加で不足気味」との声も聞かれるが、現状維持との声が多い。

建築用金属製品の販売は、前月比やや増加、前年比は減少。景況感は横ばいという。「全国的に動きはかなり少なく、秋口まで厳しい」との声。

自動車向け部品の販売は、前月比、前年比ともにやや増加。景況感には大きな変動はないとの声。

小型電磁機器の生産は、前月比やや増加、景況感もやや改善傾向にあるという。また原材料単価がやや上昇、今後も上昇見通しとの声が聞かれた。

FA関連モーターの売上は、前月比、前年比ともにやや増加、受注残高も前月比、前年比ともにやや増加。「コロナの影響が継続して懸念されるが、景況は回復してきている」といい、景況感も改善傾向にあるという。先行き景況感もやや上向きとの声。

光学機器部品の販売は、前月比やや増加、前年比は減少との声。景況感は改善傾向にあるといい、今後設備投資を増やすとの声も聞かれた。原材料、資材価格が引き続き上昇基調にあるとの声。

電気、電子製品の売上は前月比減少、景況感も悪化との声。「スポーツジム向けの商品等、見込みが立たない」との声が聞かれた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比やや増加。春の繁忙期を迎え、一部には景況感が改善傾向との声も。「コロナ禍の中、スーパー向け等は堅調」との声が聞かれた一方で、先行きについては「ゴールデンウィーク商戦がどうなるか。特に土産物は期待と不安が交錯する」との声も。

水引製品の販売は、前月比減少～横ばい。景況感はやや悪化～概ね横ばい。「今年分の注文が徐々に始めているが、コロナの影響か、全般的に例年より少ないように感じる」「毎年2月の商いはなし」「新製品の提案をしているが、なかなか手応えが感じられない」「祝儀類は落ち込みが大」などの声。また「縁起物、際物の競合他社廃業のため、盆用品の発注が昨年より増加」など、他社の廃業による影響を指摘する声も。業界での取り組みとして、「水引組合で大々的に話題作りを発信し、水引の使用範囲を広げる努力を惜しまず、大局をもった対処が必要」との声が聞かれた。

漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比では減少との声。「業務用、飲食用の需要が少ない状態が続いている」「原料は安定しているものの、出荷量は伸びていないと感じる」などの声が寄せられた。

その他製造業

食品包材の生産は、前月比概ね横ばい、景況感にも大きな変動は見られない。原材料、資材価格がやや上昇との声。

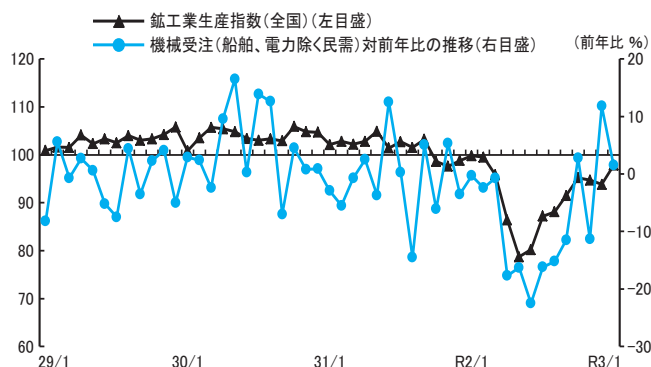
印刷、出版関連の売上は、前月比増加、前年比でもやや増加との声。「2月は前年比で稼働日数が少なかったが、前年の売上を多少なりとも上回ることができて安堵。ただ受注件数は減少しており、大物受注に助けられた」との声。製品単価は上昇傾向が続いているという。

衣料品の販売は、前月比、前年比ともに増加、景況感も改善との声。ただ先行きについての見通しは厳しく、「百貨店等の売上は戻っておらず、今後も続くことが予想される」「コロナの収束次第であるが、五輪が開催できずインバウンドも戻ってこなければますます経営が苦しくなる」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★受注がここ1～2か月で急激に増加したため納期に追われてしまっている工程もあるが、残業、時差対応などで何とか耐えるしかない。
- ★案件を選択できる状況であるが、なるべく取り込む努力が必要。
- ★やっとコロナ警戒レベルが下がったので、3月から出張を再開する。
- ★年度末に向け、官庁関係の見積もりが安値競争へ向かってしまう傾向が窺える。
- ★例年なら1年で一番忙しいGW前の現場のやりくりが大変になるほど、コロナは繊維業界を苦しめている。国内生産回帰を願うのみ。

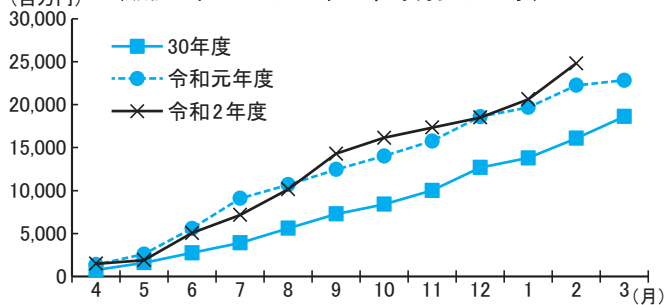
機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI	-15.4	(前月)	0.0
翌月予測DI	7.1	(前月)	-16.7

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約41.8億円、前月比97%増加、前年比でも62%増加している(3月25日調査時点)。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減分かれたが、景況感について悪化との声は少ない。

「災害工事の大型受注ができるなど、昨年よりも受注環境は良くなっている」「農業関連工事、災害復旧工事などで受注増」「豪雨災害復旧工事を中心に、三遠南信自動車道関連、リニア関連、治水工事も含め、例年を上回る工事量」「工事量増加により、先行き2~3か月分の工事は十分ある」「元請・下請ともに受注できており、当面は忙しくなる予定」などの声が寄せられた。

また、「国土強靱化施策も5か年15兆円の予算措置があり、公共工事の安定的な発注が期待できる」など、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に期待する声は多い。

雇用面の不足感を指摘する声は依然多く、「パートアルバイト、農業従事者、退職者頼み」「施工社員不足」「技術者が不足」「土木技術者募集」などの声が寄せられた。

設備面では、「古い機械、車両との入替」「業務車両の入替」などの声も聞かれるが、「建物など、維持の方針」「控え傾向」など慎重な声も。

民需

当地区の1月の住宅着工戸数は42戸。前月比21%減少、前年比では61%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少~横ばい。

住宅では、「新築はますます順調」との声もあるが、「住宅着工戸数は前年割れが続く、低調」「需要が少なく、競争が激しい」などの声も多く、先行き景況感の悪化を予測する声も聞かれた。

住宅以外の一般民間建築については、コロナの影響を指摘する声が強くなり、「先行きへの不透明感の高まりで、建設投資が低調」「土木工事は忙しいが、建築工事は厳しい」「コロナの影響で冷え込みが続いてい

る」など、強気な声は聞かれない。

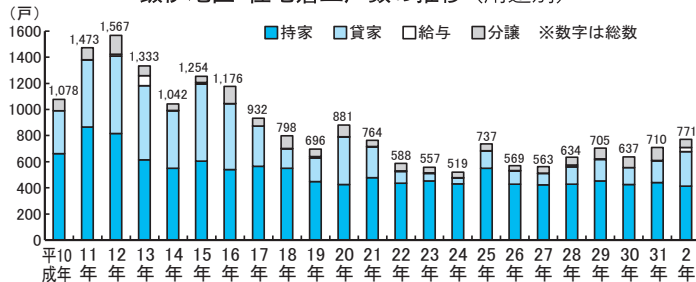
こうした中、「燃料高騰で石油製品、鋼材値上がり」「鋼材や材木等が4月から値上げになる」など、資材単価の上昇を懸念する声が複数寄せられた。

飯伊地区の令和2年住宅着工戸数

令和2年における当地区の住宅着工戸数は771戸で、前年比9%増加。用途別に見ると、持家は412戸で、前年比7%減少。給与住宅は31戸で、前年の1戸から大幅に増加した。貸家は266戸で前年に比べ59%増加、分譲は62戸で前年比39%減少していた。

総数で見ると平成21年以降では最多となっているが、持家は当研究所のデータが残る平成10年以降で最少となっており、貸家と給与住宅の増加によって全体が押し上げられた結果となった。グラフを見る限りでは、コロナの影響についてさほど感じられない結果となっているが、消費の冷え込みが今後どのように住宅着工戸数に影響してくるのか、令和3年以降も注視していきたい。

飯伊地区 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

建設資材

当月の生コンの売上は、前月比、前年比とも業者により増減分かれた。当月の主な出荷は、「三遠南信工事、リニア関連工事、護岸工事、砂防工事、治山工事、発電所工事、工場新築工事に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約6%」だったという。「2月に入って災害工事現場の動きがあり、3月以降の生コン出荷が期待される」「一つ一つの工事の規模は大きくないが数がある」との声も聞かれ、こうした業者では先行き上向きを見込んでいるという。雇用面では「運転手募集をしていたが採用に至らず」との声も。

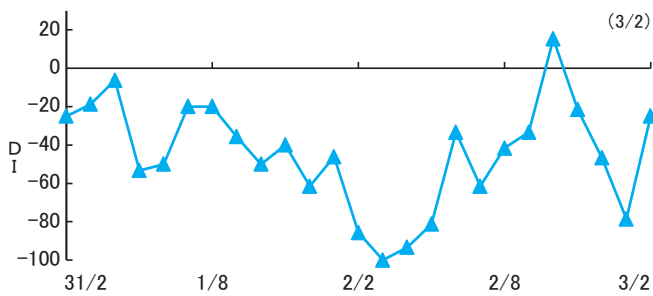
骨材の売上は、前月比増加、前年比やや減少~増加。「災害関連の発注が多く、リニア関連工事等による需要が出てきていることから動きが活発」「リニア関連工事など、商談一件当たりの必要量が桁違いの数量で、受注には慎重にならざるを得ない」などの声。

【企業からのコメント】

- ★建築の仕事は少ないが、職人も減ってきているので忙しいそう。
- ★リニアの移転工事がポツポツ出始めているか？
- ★他県ナンバーのダンプカーが目立つようになってきた。この先のダンプカー不足を他県車両でどこまで補えるのか疑問。
- ★本年秋過ぎ頃からのリニアへの生コン出荷が具体的にになってきた。

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-23.1	(先月 -78.6)
翌月予測DI	-18.2	(先月 -57.1)

商業

食品の売上は、前月比で減少～やや増加。2月の営業日数が少ない点を指摘する声もあるが、「買上げ点数は増加しているが、来店客数は減り続けている」「コロナの影響は相変わらずで、イベント・会合等がなく、まとまった食材の注文が一切ない」といった声も聞かれ、景況感はやや悪化したとの声が複数。前年比でも業者により増減分かれ、「昨年2月後半にコロナ感染が始まった影響で、昨年は品薄状態になるほど売れたため」反動が出たとの声も。

【青果卸売市場】

販売は、前月比、前年比ともに概ね横ばいという。野菜は、「重要野菜の動きが鈍く、全体の入荷量でも10%減少。価格もその分上がらず、6%高に留まった。業務筋の落ち込みが響いた結果」という。果実は、「昨年不作のみかんは順調、苺もいちご狩りの中止を受け入荷量増加。ただぶじりんごは作柄悪く、入荷量46%減少。全体では入荷4%増、価格は11%高」「苺の増加が全体の価格を上げた要因」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感は概ね横ばいとの声。先行きもやや増加を見込むも、景況感の好転までには至らない見通しという。

家事用品の売上は、前月比概ね横ばい。ただ「1年前は2月末からトイレットペーパーの買い占め騒ぎがあったため、今年は3～4月にかけて悪い」との声。景況感には大きな変化は見られない。

電化製品の売上は、前月比、前年比ともにやや増加。「先月同様、白物家電全般が好調。空気清浄機をはじめとした感染症対策に有効といわれる製品も良い」「昨年は暖冬の影響で季節商品の出荷が鈍かったが、今年は順調に推移」という。

OA機器の売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい。先行きは「年度末、年度始めの需要期のため」やや増加を見込んでいるというが、「メーカーの供給体制が不十分なのか、商品の欠品が発生して売上につながるケースも出てきている」との声も。また「運賃や役員費用の値上がり」により仕入単価はやや上昇傾向、との声が聞かれた。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声。「2月上旬は飯田保健所管内のコロナ感染の影響で宴会、来客とも厳しかったが、下旬には小宴会が入りだした」「中旬～下旬にかけてテイクアウトが増え始めた」などの声が聞かれた。仕入単価はやや上昇といい、「売上が少ないから漁師が魚を獲らない。そうすると鮮魚は種類が少なく、値段も高くなる」などの声も。

市内宿泊施設の売上は、前月比横ばい～やや増加、前年比では減少との声。「緊急事態宣言の発出により、ビジネス・観光客ともに低調」「人がなかなか動かず、厳しい状況」「徐々に良くなるだろうが、元に戻るには数年かかる」との声が聞かれた。販売単価は大きな変動はないという。

昼神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少。「県民宿泊割がスタートし県内客が少し増えるも、緊急事態宣言下の状況に加え、感染者数、重症化率等の数値が悪く、動きも悪い。休館にせざるを得ない日が増えている」「とにかく感染者が発生しない対応で手一杯」との声。こうした中、設備面では「建物の改修をしたいが、先が読めないため様子見」との声が寄せられた。

タクシーの売上は、前月比やや増加も、前年比は減少。「1月からの時短・休業要請は終了したが、丘の上は当然、それ以外にも全国的な自粛ムードにより夜の需要は全く改善されなかった」との声。一方で、引き続き「LPG価格は上昇傾向」との声が聞かれた。

【調査先企業の声】

- 自治体で生活応援商品券を出してくれたが、日々の消費に回るだけで、プラスアルファの消費にはつながりにくい。
- 工場関連の回復に期待。
- 伊那の同業者もグループ化を進めるなど、生き残るための工夫を各社が模索している。
- ワクチン接種の遅れ、コロナ感染者の下げ止まり等、コロナ禍収束が大幅にずれ込む可能性大。事業構造の変革を早急に進める必要性を痛感。
- 近いうちに、各業界で厳しい選択をする事業者が出てくるのではないかと。
- 一時支援金も、企業規模によらず一事業所単位のため焼け石に水。

【自動車新規登録台数 前年増減率の推移】

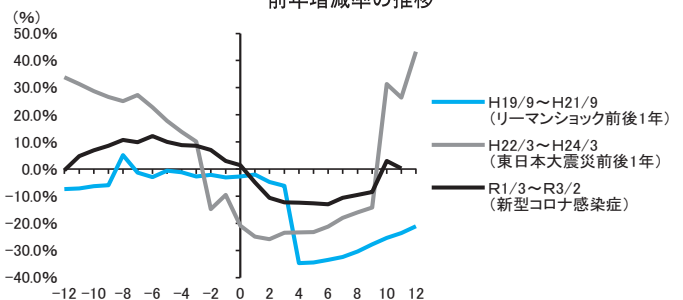
令和2年の松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数（新車+中古車）は、前年比で8%減少した。

次のグラフは、松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数（新車+中古車）の前年増減率について、今回のコロナ禍（R2/3を起点とした）と、リーマンショック時（H20/9）、東日本大震災時（H23/3）と比較したものである。

リーマンショック時は、それまではほぼ前年並みだった登録台数が、リーマンブラザーズ破綻の4か月後から前年比30%超の減少となり、その後の回復にも時間がかかっていることが見てとれる。東日本大震災時は、発生以前から減少傾向にあり、震災10か月後に大きく回復した。

今回のコロナ禍においては、発生後から徐々に減少し、半年後（R2/9）に底を打った後は、緩やかではあるが回復傾向にある。またリーマンショック時、東日本大震災時と比較すれば、減少幅は抑えられていることが見てとれる結果となった。

自動車新規登録台数（松本自動車検査登録事務所管内 新車+中古車）前年増減率の推移



(資料：松本自動車検査登録事務所)

流れ雲の目（40） ノンちゃん雲に乗る

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

「ノンちゃん雲に乗る」は、1955年鰐淵晴子主演の映画の題名である。小学校低学年で見た記憶があるが内容は殆ど覚えていない、しかしこれだけは記憶にある。真っ青な空にポッカリと浮かぶ白い大きな雲、ノンちゃんという7、8歳の女の子がその雲に乗り下界を見下ろしている。両親や近所のおじさん達が話をしている、向こうでは友達が数人で言い合いをしている。ノンちゃんも妹と喧嘩をしたばかりで落ち込んでいる、なんで人間は怒ったり笑ったり喧嘩したりするんだろう、ノンちゃんは雲の上で悲しい顔をしている。上から下を見るとあんなに小さい場所で人と人がぶつかり合いするなんて、世界はこんなに広いんだよ、みんなもっと大きな目を開き周りを見渡せば気持ちが良いよとノンちゃんは叫んでいる。

私も学校で上手くいかず落ち込んでいた時にこの映画を見たのだろう、特にこのシーンだけ記憶にあり自分も雲に乗りどこか遠くに行きたいと思ったものだ。

一步離れたり、大所高所から現実を見ると複雑な問題が案外易しく見え新しい解決策も見つかるものだ。他人の囲碁でも横から見ると良い手が見えることがよくある、俗に岡目八目とも言う。

私は大きな流れ雲になった。風に流されながら下界を見下ろし色々な会社の様子を眺めていると何とも様々な課題が見えてくる、流れ雲の大きな目でよくよく見ていると解決策も見えてくるのだ、私は独り言を言う、大きな声で。経営者はその声が聞こえたならじっくり聴くもよし、聞き流すもよし。その内容に納得したら真似をするもよし、賛同できなければ何もしなければよい。実行してみて成果が出るか、出ないか、するのも責任取るのも成果を享受するのも社長自身である、権利も責任も私にはない、あるのは社長自身である。

様々な業界の経営者と色々な形で会い話をしてきたが、100人以下の会社で言えることは経営者の考え方一つで大きくその企業の状況は変わっている。経営者が将来に対する目標を明確に持っているか否かが業績を大きく左右しているし、良くも悪くも会社業績の99%は経営者の腕であり責任である。

明確な経営思想、将来ヴィジョン、経営目標を悩みながらも考え、作り上げようと努力している企業は従業員の躰もいいし、業績も何とかなっている。

何の為に、誰のために、どこに向かって行こうとしているのかが描けているか否かが企業にとっての存在意義、存在価値があるかどうかの分かれ道である。

この会社は自分が作ったから俺の好きにしているのだ、本当にそうだろうか？

確かに自分が資本を出して苦労して設立したには違いないが、それだけで会社が存続できたわけではない。社長を信じ自分の生活を託してその会社で働いている従業員の努力があってここまで乗り越えてきたのだ、その従業員やその家族の生活はどうするのだ。

一度会社を起こしてしまうと社長の我儘や怠慢で潰していいというわけにはいかない、客先、仕入れ先も含め従業員全ての生活の責任が出てくるのだ、そういう自覚を持って経営しているならば、必ずや将来構想ぐらいは考えているのが当然である。

起業当初の燃える意気込み、親から譲り受けた時点のやる気を、如何に持続させて業績向上に励むかは社長自身の自覚の問題である、決して能力の差ではない、人間としての矜持、責任感によるところが大きい。従業員の先頭に立ち率先垂範以外に活路はあり得ない、従業員に対する思いやりと優しさは社長の人間性にかかる問題である。

社長自身の行動を、たまにはノンちゃんと一緒に白い大きな雲に乗り上から見下ろしてみると思いがけない光景を見ることができるかもしれない、やはり我が身を三省することも必要である。

経営者の皆様と一緒に経営体制、経営目標、組織人事、マネジメント、拡販目標、売上向上、利益創出、在庫削減、工場レイアウト変更、不良品撲滅、品質向上、工程合理化など様々な課題を考え行動して何がしかの成果を得られました。私自身も悩み勉強もし、本当に良い経験をさせていただきました、皆様に感謝致します。

最後に少し厳しい事を書きますが、お許し下さい。

会社の使命は当然のことながら世の中の役に立つこと。そのためには自分自身、家族、従業員、仕入れ先、得意先の全てが幸せになって初めて社会のお役に立つことができる。

経営者はそれだけの責任と自覚を持ち自身の企業の舵を取り、結果国に法人税を払うことができ初めて一人前と認められる。

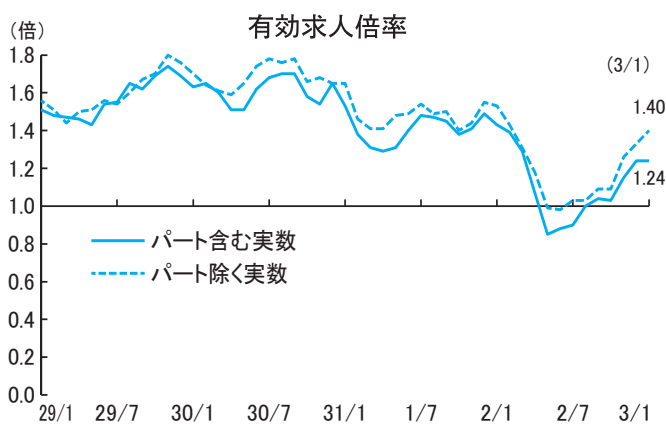
企業の品格は経営数字で示せ、故に赤字は犯罪と心得よ。たとえ一円でも利益を出せば黒字企業である。

地球全体が気候も含め大きく変動している、この厳しい世界経済環境下ですが明るく健康で前向きに、自分や仕事に厳しく、人間味のある経営者になる事を切に期待致します。

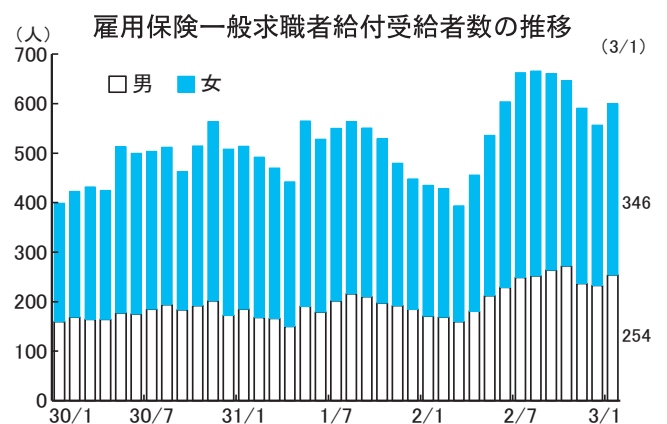
貴社の益々のご繁栄を祈願しております。長い間有り難うございました。

この稿 完

雇用の状況



令和3年1月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.24倍と、前月から横ばい。パートを除く実数は1.40倍で、前月から0.07ポイント上昇している。



令和3年1月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は21人増加、女性も22人増加。全体では600人で、前月から43人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)

三遠南信地域の「森林」(上)

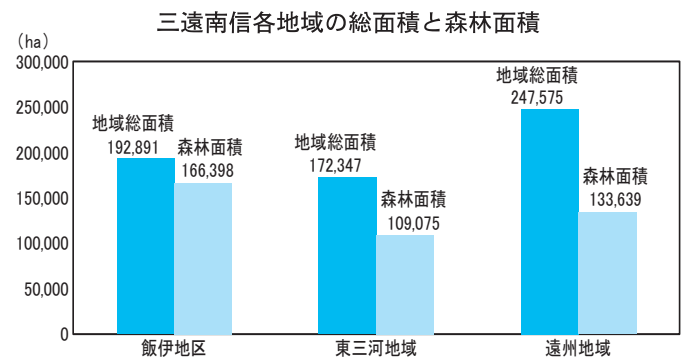
飯田市上村・南信濃地区を流れる遠山川は下流の愛知県4市14町村の水源として必要な役割を果たしていると考え、飯田市は豊川の恵みを受ける豊橋市など東三河8市町村から成る(公財)豊川水源基金と協定を締結して間伐などの森林整備経費の助成を受けている。また、根羽村、平谷村は昭和44年に愛知県岡崎市、碧南市、安城市、豊田市など22市町村と矢作川沿岸水質保全対策協議会を設置して矢作川沿岸及び水域の水質保全のために必要な調査・対策及び運動を行っており、こうした取り組みは地域間交流の礎ともなっている。

このように飯伊地域の森林は、川を通して三遠南信地域と深く結びついている。

こうしたことから今回は、飯田信用金庫しんきん南信州地域研究所、(公社)東三河地域研究センター、(一財)しんきん経済研究所の3シンクタンクによる、三遠南信各地域の、森林に関する共同統計調査をご紹介します。

1. 三遠南信各地域の森林面積、森林率

飯伊地域の地域総面積は192,891ヘクタールだが、その86%にあたる166,398ヘクタールが森林に覆われている。東三河地域の森林面積は109,075haで、これは愛知県全体の森林面積の50%を占めることになる。遠州地域では、地域総面積247,575ヘクタールのうち54%にあたる133,639ヘクタールが森林となっている。



飯伊地域は令和2年9月1日現在。東三河地域、遠州地域は令和2年3月31日現在。(各県統計を基に三遠南信3シンクタンク作成)

右表は、令和2年中の、三遠南信各市町村の土地面積や森林面積、土地面積に対する森林面積の割合(森林率)を見たものである。

東三河では、豊根村、東栄町などの上流域で森林面積、森林率が大きく、豊橋市、田原市といった下流域で森林面積、森林率が小さい。

また、遠州地域で森林面積が最も大きいのは浜松市だが、そのうち天竜区の森林面積が86,283haで、遠州地域の全森林面積の65%を占めており、森林率も高いという。

飯伊地域				東三河地域				遠州地域			
市町村	地域総面積	森林面積	森林率	市町村	地域総面積	森林面積	森林率	市町村	地域総面積	森林面積	森林率
飯田市	65,866	55,599	84.4%	豊橋市	26,186	4,284	16.4%	浜松市	155,806	102,405	65.7%
松川町	7,279	4,765	65.5%	豊川市	16,114	5,789	35.9%	うち浜松市天竜区	94,384	86,282	91.4%
高森町	4,536	2,555	56.3%	蒲郡市	5,692	1,724	30.3%	うち浜松市天竜区以外	61,422	16,123	26.2%
阿南町	12,307	10,433	84.8%	田原市	19,112	5,329	27.9%	磐田市	16,345	2,610	16.0%
阿智村	21,443	19,458	90.7%	設楽町	27,394	24,846	90.7%	袋井市	10,833	2,198	20.3%
平谷村	7,737	7,597	98.2%	東栄町	12,338	11,208	90.8%	掛川市	26,569	11,246	42.3%
根羽村	8,997	8,423	93.6%	豊根村	15,588	14,480	92.9%	菊川市	9,419	2,174	23.1%
下條村	3,812	2,652	69.6%	新城市	49,923	41,415	83.0%	湖西市	8,656	1,853	21.4%
売木村	4,343	3,834	88.3%	東三河計	172,347	109,075	63.3%	御前崎市	6,556	1,618	24.7%
天龍村	10,944	10,207	93.3%					森町	13,391	9,535	71.2%
泰阜村	6,459	5,582	86.4%					遠州計	247,575	133,639	54.0%
喬木村	6,661	5,323	79.9%								
豊丘村	7,679	6,232	81.2%								
大鹿村	24,828	23,737	95.6%								
飯伊計	192,891	166,398	86.3%								

(単位: ha)

飯伊地域は令和2年9月1日現在。東三河地域、遠州地域は令和2年3月31日現在。(各県統計を基に三遠南信3シンクタンク作成)

当地域では、松川町、高森町などの森林率が地域の中では低い。また、飯田市、大鹿村、阿智村といった土地面積の大きい市町村でも森林率が比較的高いといえるだろう。

2. 三遠南信各地域の人工林

(1) 立木地面積に占める人工林面積の割合

我が国では、古くから森林の水源涵養機能、山地災害防止機能や土壌保全機能、木材等生産機能等を重視して、その持続的な発揮のために森林の整備及び保全を図ってきた。

こうした事業の中には先人が私財を投じた例もあり、三遠南信地域でも天保3年6月7日 遠江国長上郡安間村（現浜松市東区安間町）に生まれた金原明善（きんばら めいぜん 没年1923年（大正12年））は、大雨が降れば山々からの水が集まって濁流を成し静岡県平野部で氾濫を繰り返す「暴れ天竜」として恐れられ、自身も洪水被害に罹災した天竜川の治水工事に取り組み、その後、天竜川流域の山々が荒れているのを見て、流域山間部で造林事業に取り組んだ。この事業を契機に、天竜川流域各地で急速にスギ、ヒノキの人工造林が進められ、現在では「天竜美林」と称される森林が育成されている。

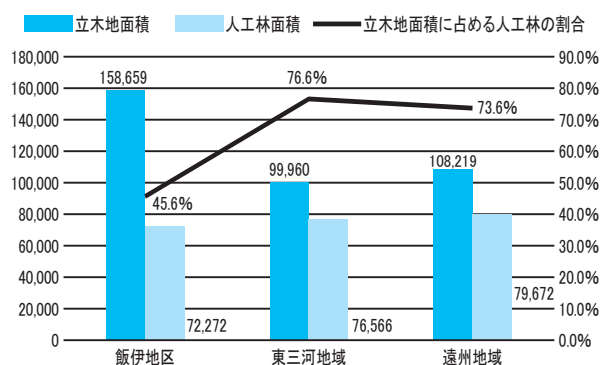


天竜美林（上：浜松市ホームページ）と、金原明善（下：（一財）金原治山治水財団）

このように人の手で維持されてきた森林だが、立木地面積に占める人工林面積の割合を見ると、遠州地域では73.6%、東三河地域でも76.6%となっている。飯伊地域では45.6%と低いが、長野県全体の最近の人工林率は48%程度でほとんど変化がないといわれており、当地域の人工林率が県内で取り立てて低いというわけではないと思われる。

戦後の復興期、建築用材、梱包用材、土木建設用材のためのスギ、マツ等の針葉樹の需要が大きかったにもかかわらず、国産針葉樹材の供給量が停滞していたことなどから、国有林及び民有林における緊急増伐を行った。そして早期に回復すべき伐採跡地に、建築用材等の需要が見込め、成長も早い針葉樹の植栽が進められた。こうした「拡大造林」事業に伴い、三遠南信各地域でも人工林が急速に増加したと言われ、金原明善による人工造林が始まった浜松市天竜区龍山町付近では、人工林率が90%を超えているという。

三遠南信各地域の人工林

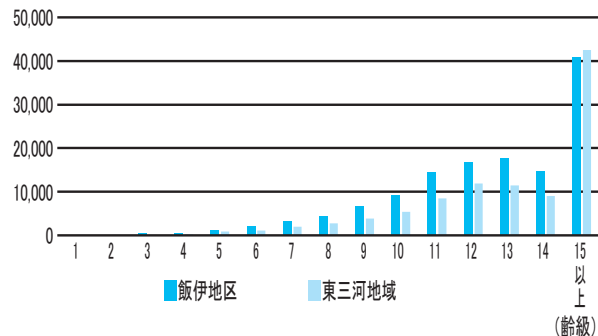


飯伊地域は令和2年9月1日現在。東三河地域、遠州地域は令和2年3月31日現在。
（各県統計を基に三遠南信3シンクタンク作成）

3. 三遠南信各地域の森林蓄積

飯田市の場合、立木の標準伐期齢は、針葉樹のカラマツ40年、アカマツ40年、ヒノキ45年、スギ40年、広葉樹では、クヌギ15年、ナラ類20年、ブナ70年などと定められているが、一般的な主伐期である50年生を超える樹齢の森林面積は、飯伊地域で79%、東三河では83%となっている（人工林、天然林計）。こうしたことから、「民有林の蓄積の増加や伐採適齢樹木の増加など、森林資源は人工林を中心に成熟過程にある」（長野県「平成30年度林業統計書」）と言われ、資源の有効活用が可能な時期に入っているとされる。（この項続く）

飯伊地域民有林、東三河地域森林計画区の、齢別資源量（人工林・天然林合算）



齢級は、林齢を5年の幅でくくった単位。
飯伊地域は令和2年9月1日現在。東三河地域は令和2年3月31日現在。
（各県統計を基に三遠南信3シンクタンク作成）

（文責：飯田信用金庫しんきん南信州地域研究所 中村 達）

リニアとまちづくり・地域づくりは ～ 飯田市議会リニア推進特別委員会の2年間～

飯田市議会3月議会が閉会した。リニア推進特別委員会のこれまでの活動について井坪委員長に聞いた。

一先にリニア推進特別委員会の任期前半の活動を振り返っていただきました(平成31年2月発行号 No.479)が、後半を総括してどうでしたか。

任期の折り返し時点で委員会の構成を入れ替え、委員長も交替というところ、凶らずもリニア推進特別委員長に再任された。



リニア推進特別委員会
(飯田市HP市議会委員会インターネット配信より)

■**財政問題** 今期は、過去に実施した高岡市視察(新幹線駅設置自治体の赤字転落)を踏まえて、リニア関連事業の財政問題について飯田市の財政担当者から説明を受けるなど、財政の研究に取り組んだ。リニア駅周辺整備の事業費が91億円であることを明らかにでき、財源と市の財政状況からみてまずは耐えられるであろうという心証を得た。更に事業費の圧縮は可能か、逆にプラスアルファの追加となって出てくる事業があるのではないかなど、リニア関連事業について「事業費」とか「財政」という観点を、議会をはじめ市民に認識して貰うきっかけをつくったと考えている。

■**乗換新駅** 最終盤には、市長から「乗換新駅」について説明を受ける機会を設けた。市長の選挙公約は「乗換新駅はつくらない」であり、従来の市の立場は「乗換新駅の設置を検討する」(必ずしも「設置する」としてきたわけではない)というもので、議会もそれを諒としてきた。今日的には、交通に進歩が見られ、自動運転とかMaaS(注)という概念も出てきて、乗換新駅はつくらなくても良いという選択肢も可能となったともいえる。乗換新駅設置取り止めという方向性もありうる中、委員会での市長との議論を通じ、比較検討のための材料を市に求めていくという対応ができたので、今後議会として事業費等の試算などを通じて、飯田線との接続のあり方を今後詰めていくことになる。

■**特別委員会提言** 特別委員会として「リニア駅周辺整備実施設計に向けた提案と活動のまとめ」という形で提言していくこととし、最終取りまとめにかかっているところである。

一提言の内容は。

一昨年策定の「基本計画」を尊重しつつも、「大屋根」の構想は評価できるが、設計からメンテナンス(維持管理)及び景観に至るまでの総合的な検討を求めた。財政見通しについて、県とともに、リニア沿線の間駅設置自治体との連携も図りながら、財源確保に向けた国への働きかけの強化を求めた。

リニア推進特別委員会での審議を伝える新聞記事
(南信州新聞 令和3年2月4日付)

更には、移転を余儀なくされる住民、事業所等の皆さんをはじめ駅周辺整備に関係する市民に対して、最後まで事業の丁寧な説明を行われたい、とした。

加えて、説明会等への出席できない市民の皆さんや声なき声にも耳を傾け、目指すリニア駅の姿の実現に向けてのご協力、ご理解が得られるよう努めることを提言に盛った。

ー駅周辺整備については、実施設計に入っていく段階と思われませんが、今後、例えば駅周辺整備の周辺のまちづくりをどう考えるか、リニア駅と中心市街地との結節をどうするかなど、引き続き重要な課題がありますが。

リニア推進特別委員会は駅周辺整備に関することに特化して調査・研究を行う委員会で、街づくり、道路整備などは別の常任委員会の所管。リニア特別委員会の議員は所属している各常任委員会の方で議論することになる。リニアを見据えたまちづくりのために市が策定している「リニア推進ロードマップ」には、リニア駅周辺を「広域交通拠点」、中心市街地を「中心拠点」としているが、これとリニアをどう関連させるか、具体的検討はこれから。リニア特別委員会をはじめ、環境やまちづくりに関することは総務委員会、交通関係は産業建設委員会というようにそれぞれの委員会がリニアに絡めた思考で物事を考えていく必要がある。

一つの考えとして、どこの議会でも議長選挙が行われるが、当選した議長のマニフェスト（選挙公約）の「私はこういうことをやっていく」を議会全体として受け止め、次の2年間なりをどう議会として活かしていくかを考えて実行し、結果を議会で検証する。このように議会活動を一本通したものにしていこうというもので、参考になると考えている。



リニア駅周辺整備が進められる上郷北条地区

ー最後にリニア関連事業に関し、今後の議会の取組みについて

令和3年度から、駅周辺整備、アクセス、トンネル工事などの多くの関連事業が設計段階に入る。更に令和4年度以降には実際に工事が始まる予定である。2027年リニア開業が不透明ななかでも、リニアが通る当地としては、着実に計画通り事業が進められることが移転を余儀なくされる方々をはじめとした皆さまの人生・生活設計に寄り添うことにつながる。また、経済をはじめとする地域振興の計画もこれに沿って準備が進められる必要があり、まさにこれからの数年間が非常に重要な局面となる。

昨年12月に開催したリニア推進特別委員会研修会で講師の櫛引素夫青森大学教授から、「『駅』という『ところ』を考えるのではなく、駅をまちの一部としてまち全体を考える」という視点をいただいた。これを議会としても捉えていかないと、設計段階から事業着手への流れのなかで手遅れになることも考えられる。



分譲が開始された上郷丹保代替地

議会としての更なる調査、研究、学びを継続していきたい。

MaaS (マース) Mobility as a Service

様々な交通手段 (transport service) を統合して、ひとつの交通手段とするもの。鉄道、バス、航空機、レンタカーなど異なる種類、事業者によるサービスをまとめて検索、予約、支払を可能とする仕組み。

(飯田信用金庫 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)